



Messenger™

Portable PA System



USER'S MANUAL

日本語版



株式会社 サウンドハウス

〒286-0044 千葉県成田市不動ヶ岡1958

TEL:0476(22)9333 FAX:0476(22)9334

<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

この度はPeavey製 Messenger™をお買い上げいただき誠にありがとうございます。製品の性能を十分に発揮させ、末永くお使いいただくためにご使用になる前にこの取扱説明書を必ずお読みください。尚お読みになった後は保証書と一緒に大切に保管してください。

ご使用になる前に取扱説明書をお読みください。

- ・ 梱包を開き、破損した部品や欠品がないか確認してください。異常がある場合は販売店にご相談ください。
- ・ 感電防止の為、使用中は部品に触れないでください。
- ・ 各装置の設置を完了するまでは電源を入れないでください。
- ・ 40℃を超える環境で本体を使用することはお止めください。
- ・ 本製品は屋内使用専用です。屋外では使えません。
また、雨天や湿気の多い場所での使用はお止めください。火災や感電の原因となります。
- ・ 本製品はラジエーター、ストーブ等の熱源から離して使用してください。
- ・ 水などの液体を本体表面にこぼしたり、本体内部にかけたりしないようご注意ください。
- ・ 電源ケーブルが踏まれたり、挟まれたりしないよう注意してください。
- ・ メーカーによって供給された付属パーツ以外は使用しないでください。
- ・ 本体は通気性の良い所に設置し、周囲に可燃物や爆発物を置かないようご注意ください。
また、使用中は本体が熱を持ちますので、近くには何も置かないでください。
- ・ 落雷時や長期間使用しない場合、電源プラグを抜いてください。
- ・ 本体の掃除をする際は乾いた布のみを使用してください。
- ・ AC100V、50/60Hzにてご使用ください。

故障が生じた場合はお手数ですが販売店もしくは正規代理店に連絡してください。

無断で本体カバーを開けられた場合、保証の対象外となることがあります。

基本仕様

●キャリングケース

軽量かつ、耐衝撃性に優れたポリプロピレン製
持ち運びに便利なブリーフケースタイプ、人間工学に基づいたモダンなデザイン
連結式のスピーカー
ケーブル・マイクを収納可能な内部スペース

●パワードミキサー

100Wの連続出力
2系統のスピーカー用マスターチャンネルは、それぞれボリューム調整が可能
独立したボリューム、Low、Mid、HighのEQ調整が可能な5系統の入力チャンネル
(チャンネル1、2にはMid Morph™コントロールを装備)
FLS® (Feedback Locating System)を搭載した5バンド・グラフィックイコライザー
チャンネル4、5はトラックセレクトスイッチ付きでスプリットトラック・ミックスが可能
ファンタム電源を供給できるXLR入力端子を2系統搭載
ハイゲインMIC/INST入力端子を1系統搭載
ライン入力端子を3系統搭載
RCA入出力端子をそれぞれ2系統搭載
ヘッドフォン出力端子、ヘッドフォンレベルコントロールを装備
標準フォーンのライン出力端子を1系統搭載

●スピーカー

高性能2ウェイスピーカー × 2
ポリプロピレン製エンクロージャー
メタル製グリル
各スピーカーに4インチ高出力ウーハーを2台搭載
1インチツイーターを搭載
モールド加工されたスピーカースタンド用レセプタクル

●マイクロフォン

PV® i100ハンドヘルド・マイクロフォン
ダイナミック型・カーディオイド
メタル製グリル
ON/OFFスイッチ
XLRバランス出力

●ケーブル

スピーカーケーブル (3.6m) × 2
XLR仕様マイクロフォンケーブル (4.5m) × 1
ラインケーブル × 1

クイックセットアップガイド

Messenger™の設置は誰にでも簡単に行う事ができますが、必ず安全面をご確認の上ご使用ください。つまずいたりしないよう、必要に応じてケーブル類はテープで止めるなどの措置を行ってください。スピーカースタンド、ミキサースタンドは安定した固い平面に設置してください。怪我や機器の破損を防ぐ為、以下のガイドラインに従って設置を行ってください。

●ミキサー・スピーカーの設置

本体を水平な面に置き、ラッチを上側に持ち上げて外します。トップカバーを開き、スピーカーを取り外します。

スピーカーをマイクから離れた適当な面に置き、聞き手側を向くように位置を決めます。接続に必要なケーブル類はポーチに収納されています。スピーカーケーブルをスピーカー背面の端子からパワーDMキキサーに接続します。左側スピーカーはミキサーサイドパネル上にあるスピーカー出力端子のLチャンネルに、右スピーカーはRチャンネルに接続してください。

※付属のスピーカーはアンプに最適の負荷を与えているので、その他のスピーカーをパワーDMキキサーに追加して接続することは避けてください。



●マイクの接続

Messenger™のパワーDMキキサーは、付属のマイクをはじめ、他のダイナミックマイクや15Vファンタム電源で駆動可能なコンデンサーマイクも使用することが出来ます。以下画像にあるようにマイクをXLRの入力端子に接続してください。



クイックセットアップガイド

①コントロールの初期調整を行い、電源を入れる

マスターレベルフェーダーを“5”の位置に、その他の調整ノブを“0”の位置に設定します。(グラフィックイコライザーの各スライダーも“0”に設定します) IEC電源コードソケットの隣にあるスイッチをONにします。

②ゲイン/ボリュームの調整をする

マスターレベルを5にした状態で、スピーカーから出力されるボリュームが適当な量になるまで、各チャンネルのレベルを調整します。もし各チャンネルのレベルが低い状態(1-3)で適度なボリュームが得られるようであれば、マスターレベルフェーダーを下げてください。適度なボリュームを得るのに各チャンネルのレベルを9-10まで上げる必要がある場合はマスターレベルを上げてください。L/Rの各マスターレベルフェーダーはそれぞれ左右のスピーカーのレベルを調整します。

③トーンの調整を行う

各チャンネルの低・中・高音域を必要に応じて調整します。チャンネルごとのトーン調整は控えめに抑えてください。中音域を調整するEQは幅広い調整を可能にするために特別にデザインされています。ノブを左側(反時計回り)に回すと音声に温かみと滑らかさを与え、右側(時計回り)に回すと音声をより明瞭に再現します。ここでの調整を極端に行うと、逆に音質に悪影響を与える事があります。また、ブーストの量が多すぎるとフィードバックの原因にもなりますのでご注意ください。

④グラフィックイコライザーを使用する

各チャンネルのLow/High調整ノブと違い、5バンドグラフィックイコライザーはパワードミキサーに送られる全信号の全体的なバランスを調整します。このイコライザーによって、よりきめ細かい音決めを行う事が出来ますが、調整は適度に行い極端なセッティングは避けてください。

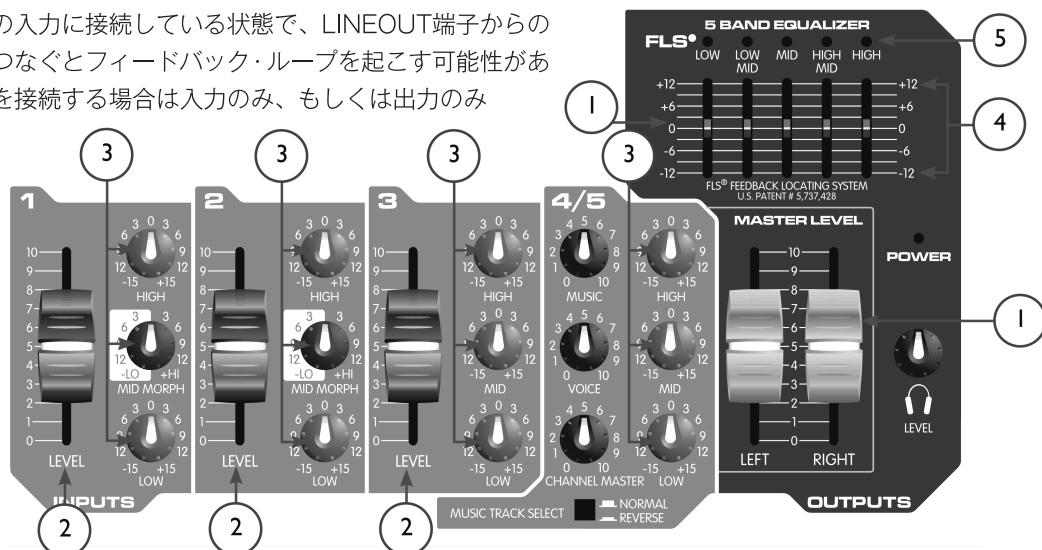
⑤フィードバックを除去する

フィードバックに対する処置としてEQの調整を行う前に、音響システムにおけるマイク、スピーカーの位置を見直すことが大切です。スピーカーは聞き手側に向かってダイレクトに音出力される向きで、マイクからはなるべく離して設置してください。またマイクは相応な位置まで音源に近づけてください。ボーカルまたは話し手にマイクを近づける事によって、ゲインを上げる事なくボリュームを上げる事が出来ます。

FLS® (Feedback Locating System)のLEDインジケータはフィードバックを軽減、除去するのにとても効果的な機能です。サウンドチェック時にまずグラフィックイコライザーのスライダーを全て“0”の位置にし、フィードバックが起こるまでマスターレベルフェーダーを各チャンネルのレベルを上げます。点灯したLEDに対応する周波数帯のスライダーを少しだけ下げます。これでフィードバックが起こる周波帯のゲインを下げる事が出来ます。以上の調整を必要に応じて繰り返し行うことにより、フィードバックを軽減する事が出来ます。イコライザーのスライダーを極端に下げると音質が落ちる事がありますのでご注意ください。

AUX出力端子 (LINEOUT) について

レコーディング時や補助アンプを使用する際、ミキサーからラインレベル信号を出力する端子です。録音機材からの出力をミキサー部の入力に接続している状態で、LINEOUT端子からの信号をその機材につなぐとフィードバック・ループを起こす可能性があります。録音機材を接続する場合は入力のみ、もしくは出力のみ接続してください。



クイックセットアップガイド

●スプリットトラック・ミックス

スプリットトラックとはボーカルをステレオの片方のトラックで、演奏をもう1つのトラックで聞かせるもので、多くのシングアロングCDやカセットで用いられています。この方法の便利な点は、パフォーマンスの間、ボーカルの音量を小さい状態、または全く無い状態で演奏を流す事が出来ることです。

Messenger™はこのスプリットトラック機能を内蔵しています。チャンネル4/5はボーカル (Voice)、演奏 (Music) のレベル調整を個別に行い、更にマスターボリュームで両トラックのレベルを調整する事が出来ます。

例えば、あらかじめ録音された音源(ボーカル・演奏の両トラック)を、ライブ時にボーカルなど他チャンネルのレベルに合わせたい場合は、チャンネル4/5のマスターボリュームを上げます。

それに対し、ボーカルに対するバックの演奏のボリュームを上げたい場合、チャンネル4/5のMusicノブを調整しレベルを上げます。

この方法では1つのトラックを、もう片方のトラックのレベルとは関係なくコントロールできるので、複数のチャンネルのボリュームを上げ下げしてコントロールするバランス/フェーダー調整よりも便利です。

スプリットトラック音源を作成するプロダクションの手法はレコード会社によって異なる為、ボーカルと演奏のトラックが逆になり、MUSICノブを調整した時にボーカルのレベルが変わってしまう事があります。その際はノブの下にあるMusic Track Select ボタンを押してください。Musicノブが演奏を、Voiceノブがボーカルを正しく調整するようになります。



●CD・テープ・その他ラインレベル音源を接続する

接続する機器からの出力をチャンネル4/5のRCAピン入力端子につなぎます。右チャンネル用が赤い端子、左チャンネル用が白い端子になっています。通常のオーディオを再生する場合、チャンネル4/5のボーカル/演奏ボリュームを5の位置に設定してください。トラックのボリュームを調整する場合はチャンネル・マスターボリュームを使用します。



※電源ケーブル接続時の注意

電源ケーブルを接続する時は本体がOFFの状態である事を必ず確認してください。IEC電源コードを本体バックパネル上のソケットに差し込み、反対側のプラグをコンセントに差し込みます。



トラブルシューティング

トラブル内容	チェック項目	対処方法
音が出力されない (電源ランプが付かない)	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチはOnになっていますか？ 接続したコンセントに問題はありませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 電源スイッチをOnにしてください 接続したコンセントに問題がないか確認してください。
音が出力されない (電源ランプは付いている)	<ul style="list-style-type: none"> マスターレベル、各チャンネルのレベルは上がっていますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 適当なレベルまでマスター、各チャンネルのレベルを上げてください。 スピーカーの接続を確認してください。 マイクのスイッチがOnになっているか確認してください。 マイク、音源の接続を確認してください。
ハムノイズが発生する	<ul style="list-style-type: none"> Messenger™ 及び接続された機器のケーブルは正しく接地されていますか？ 全てのケーブルはしっかり接続されていますか？ スピーカーケーブルを除く内部配線はシールドされていますか？ ハムノイズはマイクを触った時に発生しますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> チャンネル1から順に各チャンネルのボリュームを下げ、問題が外部音源から発生していないか確認してください。 接続する機器はMessenger™と同じAC電源タップに接続する事を推奨します。 マイク及び、マイクケーブルを取り替えてください。
片側のスピーカーしか鳴らない	<ul style="list-style-type: none"> スピーカーケーブルはしっかり接続されていますか？ マスターレベルフェーダーは両チャンネルとも上がっていますか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルを奥までしっかり差し込んでください。 左右のスピーカーケーブルを取り替えて、ケーブルに異常がないか確認してください。
ハウリングが起こる	<ul style="list-style-type: none"> マスター及び各チャンネルのレベルを下げた時に消えれば、それはフィードバックによるものです。 本マニュアルの『フィードバックの除去』、『グラフィックイコライザーを使用する』の項目をご参照ください。 	<ul style="list-style-type: none"> マイクのボリュームを下げてください。 マイクの位置を後ろに下げるか、スピーカーから遠ざけてください。 FLS®のLEDインジケータを見てフィードバックが発生している周波帯域のレベルを下げてください。
音が歪む	<ul style="list-style-type: none"> 各チャンネルのレベルが高く設定されていませんか？ 	<ul style="list-style-type: none"> 各チャンネルのレベルを下げ、マスターレベルを上げてください。

製品仕様

出力	各チャンネル50W/4Ω
周波数特性	40Hz~25kHz(+0/-3dB @1W)
全高調波歪率	0.8%以下(定格出力時)
S/N比	85dB(標準マイク入力)
交流電源	100VAC 50/60Hz
総重量	8.8kg
外寸	34.3cm(H) x 62.2cm(W) x 13.3cm(D)
スピーカー	4インチウーハー 1インチダイナミック・ツイーター
マイクロフォン	ダイナミック型カーディオイド(単一指向性)



保証書

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

ご購入日より1年間有効

■保証規定

保証期間内（ご購入より1年間）において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書に基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取り扱い方法が不適当（例：過大入力によるウーハー焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. 製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことにより故障及び損傷がおきたとみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト各種パーツ等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. お客様自身で行った調整や修理作業が原因で生じた破損事故や故障
11. その他、メーカーの判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、佐川急便に限り着払いを受け付けます（下記RA番号が必要です）。沖縄などの離島の場合は、着払いでの受付は行っておりません。送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

初期不良または保証内の修理における着払いでの運送については、サポート担当より通知されるRA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状シールに明記してください。RA番号が無いものについては、佐川急便以外の運送会社での着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる損害（周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損害）に関してサウンドハウスは一切の責任を負いません。